

長研だより

No. 3

発行日 10月25日（金）

次長兼教職教育課長講話 菊池哲也

9月27日（金）に、菊池哲也次長の講話がありました。菊池次長からは、自らの研修を振り返りながら研修生に意義や困ったときの対応などの話がありました。その中で、子どもたちにどんな力を身につけさせたいのか、何を研究したいのかが明確になっているかが特に重要であることを伝えていました。長期研修生からは「苦しいときこそ笑いなさいということと、守破離の話聞いて基礎基本の大切さを改めて感じた。」という感想がありました。



情報教育課長講話 渡邊 聡

10月8日（火）に、渡邊情報教育課長の講話がありました。冒頭の高校教師時代の思い出では、学年経営や自身の趣味についての話がありました。どれも渡邊課長の人柄が伝わるエピソードでした。

教育の情報化、プログラミング教育については、背景となる、時代の変化や求められる学力等についても、分かりやすく説明していただきました。長期研修生からは、「新しい時代に必要な力や教育の情報化について改めて考えるよい機会となった。」等の感想が聞かれました。



研究計画発表会：研究の方向性についてプレゼンしました。



21日（月）に、研究計画発表会を各教科・分野ごとに行いました。

今回は、プレゼンテーションソフトを使い、研究の方向性について発表を行いました。

「構造図」を示しながら、研究についての「基本的な考え」方や「具体的な手立て」、「単元の指導計画」について発表しました。長期研修生の中には、原稿を読むだけでなく、画面を見ながら発表する姿が見られました。

次は、いよいよ現地研修の準備に入ります。

現在、朝のスピーチでは、「本の紹介」を行っています。今年は、絵本を紹介する先生が多く見られます。家庭だけでなく学校でも読み聞かせを行っているそうです。中学生にも読み聞かせを行っている先生もいます。また、感動した本を自分の体験等と結びつけながら語る先生もいます。今年の長期研修生も「自分の思いを安心して語れる集団」になったことが感じられ、嬉しく思います。次のテーマは「心に残る児童生徒との思い出」を検討中です。